
保育所実習指導Ⅱにおける 役割分担に基づいた模擬保育を通じた学び(1)

酒井 基宏・藤川 志つ子・石川 勢津子・柴田 京子

Learning through Simulated Childcare Based on the Division of Roles
in Childcare Training Guidance II (1)

Motohiro SAKAI / Shitsuko FUJIKAWA / Setsuko ISHIKAWA/ Kyoko SHIBATA

キーワード：保育所実習指導、模擬保育、チーム保育、同僚性

本研究は、保育所実習指導Ⅱにおいて、保育者の役割分担に基づく模擬保育を通して得た学生の学び、授業の教授方法の検討を目的とした。その結果、チームでの保育を進めることや学び合いの視点から、同僚性への気づきにつながる教育的効果があるという結果が得られた。同僚性を意識したチーム保育の具体的な教授内容については今後の課題である。

1 問題と目的

2017年5月より保育士養成課程等検討会において、保育士養成課程等の見直しが検討され、保育実習教育の強化がますます図られている。保育者の専門性がより求められている中で、保育の質を高めていくには、実習を核にした養成課程としての位置付け、実習指導の充実を欠かすことはできない。「保育実習実施基準」では保育実習の目的を以下に示している。保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする¹⁾。つまり、保育者を目指す学習課程として理論と実践の習熟が掲げられており、養成校が一体となって教員同士が連携して実習指導を行うことが命題となっている。保育実習指導は厚生労働省が示す基準に沿って取り組まれ、指導の内容や方法については近年、「保育実習指導のガイドラインVer.Ⅲ.1」(2017)、「保育実習指導のミニマムスタンダードver.2」(2018)が策定されているが、佐藤(2017)²⁾も指摘しているように、各養成校の独自性や創意工夫が尊重されながら授業は展開されている。

実習への期待と不安が入り混じる中、実際の保育現場を見据えて、保育者になる準備を整えていく場が保育実習指導である。学生自身の保育実践力の育成が期待され、保育実習指導においても「主体的・対話的で深い学び」を実現する手段の一つであるアクティブラーニングの手法が注目されている。学習者が能動的に学ぶことにより、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ることが目的とされ、教職課程コアカリキュラム(2017)³⁾においては、主体的・対話的で深い学びを得る具体的な指導場面として模擬保育とその振り返り

が示されている。模擬保育について坂口（2019）⁴⁾は、設定された課題について、学生が保育者役と子ども役に分かれて現場さながらに保育を進めていき課題に取り組むものとし、事前シミュレーションとフィードバック性によって、アクティブラーニングの観点からも有用であることを示唆している。

保育者養成校での模擬保育に対する関心は高く、保育内容の指導法からの検討（藤元2023、久富ら2022、井崎2021、高原ら2016）、オンライン授業における検討（玉瀬ら2023、上田ら2022）、養成校における模擬保育のあり方としての検討（藤川ら2022、高橋ら2020、猪田ら2018、阿部2016）、実習との関連性からの検討（松家ら2022）、子ども理解からの検討（林2018）、自己・他者評価からの検討（小嶋ら2021、坂本2016、河北2012）など、幅広い見地より先行研究は存在し、保育者役、子ども役、ときには観察者役から、それぞれの学びに焦点が当てられ、方法論やその効果について省察・検討がなされている。一般的に模擬保育は、保育者役と子ども役とに分かれ、役割交代をしながら進められているが、これまでの先行研究では保育者役は複数存在しても一括りに捉えられ、保育者の連携や協働に焦点を当てたチーム保育の視点を加味した授業展開はなされずにいた。保育所保育指針解説においては、職員一人一人が保育所全体としての目標を共有しながら協働する一つのチームとなって保育に当たる⁵⁾と示され、保育者はチームとして協力し合いながら日々の保育を支えていくことが求められている。多くの保育施設では、配置基準や当番体制のもとに複数の保育者が子どもと関わってクラス保育を運営しており、チームでの保育によって保育の質や意識が高められ、多面的な保育観が育まれていくと考えられる。そこで本研究ではチームでの保育に焦点を当て、保育者の役割分担に基づいた模擬保育に学生自身が取り組むことによって、どのような学びを得たのかを検討していくことを目的とする。また、模擬保育の実施に伴う教育的効果を踏まえ、保育所実習指導Ⅱの教授方法についての検討を行う。

2 方 法

（1） 保育所実習指導Ⅱの授業概要

保育現場での実践経験を有する4名の教員により、授業が展開される。各教員の保育経験はA教員（公立保育園18年勤務）、B教員（公立保育園17年勤務）、C教員（公立保育園13年・私立保育園15年勤務）、D教員（公立保育園30年・私立保育園5年勤務）となる。履修者は113名で、模擬保育に関する演習内容は全15コマ中6回を充当した。通常は3クラスに分かれて授業は展開されているが、本講義では学生がより互いの意見を交換できるよう、4クラスに分かれて受講をしている。

（2） 模擬保育の授業展開

各授業の具体的な展開は、表1に示した通りとなる。主活動については、「運動あそび」「表現あそび」「制作あそび」の3つのジャンルからクラス内で3つ以上重複しないよう調整して決めている。各クラスでは学生は6グループに分かれ、模擬保育を実施することとした。各グループの人数は5名とし、教員側が学籍番号順に割り当てているため、グループ成員の関係性は緊密であると言いはし難い。そのため、1回目の話し合いでは各グループ共に緊張感が見受けられていた。2回目以降より、リーダーの学生を中心にチームとしての活気が少しずつ出始めていたが、意見がうまくまとまらない、メンバーが揃わず話し合いが進まない等、進捗状況には差が見られた。

限られた時間の中での事前準備であったが、授業内で足りない部分はグループごとに空き時間を活用しながら打ち合わせを重ね、それぞれ自身の役割を意識して取り組む姿が印象的であった。指導計画については、グループ内で決定したリーダー、サブ、フリーの役割分担に基づいて、それぞれの立ち場から援助時の留意点を記載するよう指導している。発表は後半の3回で2グループずつ実施する。発表の際、保育者役、子ども役、観察者役は次の点を意識して実施するように伝えている。

- ・保育者役：それぞれの役割を担って、主活動を進める。リーダー保育者（クラス全体の様子を把握しながら主活動を進める）、サブ保育者（活動がスムーズに進むようリーダーの補佐を行う）、フリー保育者（教材の準備や片付けの他、主活動に入れない子どもへの援助を行う）。模擬保育終了後は振り返りシートⁱ⁾に沿って、自身の役割について記録を行う。
- ・子ども役：2歳児をイメージして保育に参加する。模擬保育終了後に感想を発表するが、単に「楽しかった」と抽象的なコメントで終わることのないよう、環境や発達を踏まえる等具体的な発言を心掛ける。
- ・観察者役：振り返りシートⁱⁱ⁾に沿って、役割分担に基づく保育者の保育内容、子ども役の姿について記録を行う。

表1 保育所実習指導Ⅱにおける模擬保育(授業計画)の具体的内容

	授業内容
1回目	グループ活動① ・主活動の決定。(2歳児クラスを対象年齢に設定) ・備品や準備物の確認。 ・グループ内の役割分担の決定。(リーダー・サブ・フリー) ・指導計画作成に向けた説明。
2・3回目	グループ活動② ・指導計画作成。(役割分担に基づき個々人で作成) ・主活動に向けた準備。(保育教材の制作等)
4・5・6回目	模擬保育の発表。(1回で2グループ発表) ・1グループの持ち時間は30分。 (主活動20分・片付け5分・振り返りシート記入5分) ・発表グループ以外の学生は子ども・観察者役に交代で担当。 (体験後、子ども役は感想を発表、観察者役は振り返りシートに記入)

(3) Googleフォームでの質問調査による検証

模擬保育終了後、保育所での実習体験前後に行ったGoogleフォームにおける質問調査を元に、今回は研究の中核となる「保育者の役割分担に基づいた模擬保育を授業内で体験することの意義」「チームでの保育に対する気づきと学び」に焦点を当てて分析を行った。

① 質問紙調査の目的

保育所実習指導Ⅱで実施した模擬保育において、メンバー同士の相互交流を通して、自身の役割やグループへの貢献度を含めたチームで保育を行う意識について、学生自身がどのように捉えていたのか、また実習を経て模擬保育の経験が有用であったのかを検討することを目的とする。

②調査対象者及び調査時期

調査対象者は2023年保育所実習Ⅱを履修した113名である。保育所での実習体験の前後にそれぞれ実施し、模擬保育終了後の同年7月27日及び、保育所実習終了後の9月20日から10月16日の期間内にGoogleフォームにて行う。千葉敬愛短期大学研究倫理規程第7条の規定に基づき「人を対象とする研究に関する計画書」の提出及び承認を受けて実施し、調査結果については、今後の授業改善及び研究論文作成に活用され、協力できない場合においても学業等に不利益を被ることがないこと、匿名での実施及び統計的に処理がなされるため個人が特定されないことを伝え、同意を得ている。回答率は以下に示す通りとなっている。保育所実習前は98名（回答率87%）が回答、保育所実習後は42名（回答率37%）が回答し、全ての回答が有効となっている。

③分析対象となる質問項目

「保育者の役割分担に基づいた模擬保育を授業内で体験することの意義」と「チームでの保育に対する気づきと学び」について検討を行うため、保育所実習前後の質問項目を以下に分類している。

【保育者の役割分担に基づいた模擬保育を授業内で体験することの意義】

〈保育所実習前〉

- ・個人ではなくグループで計画を立てた経験はいかがでしたか。（「大変満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5件法で回答）
- ・グループでの話し合いで、うまくいったと感じたことを一つ選んでください。（「意見を集約し調整すること」「時間配分」「模擬保育の内容」「指導計画作成」「その他」の選択肢で回答）
- ・グループでの話し合いで、難しいと感じたことを一つ選んでください。（「意見を集約し調整すること」「時間配分」「模擬保育の内容」「指導計画作成」「その他」の選択肢で回答）
- ・グループでの話し合いの時の発言やグループ内での自分の役割や貢献度はいかがでしたか。（「大変満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5件法での回答）

【チームでの保育に対する気づきと学び】

〈保育所実習前〉

- ・今回の模擬保育は今後の保育や次の実習に役に立つと思いますか。（「非常に役に立つ」「かなり役に立つ」「まあ役に立つ」「あまり役に立たない」「役に立たない」の5件法で回答）
- ・グループで保育をする意味はどのようなものがあると思いますか。（「保育内容について具体的なアドバイスがもらえること」「配慮点・工夫点を学べること」「自分では気づかない考えやアイデアがもらえること」「年齢に合った活動について学べること」「時間配分や活動の進め方について学べること」「指導計画など記録の書き方について学べること」の6項目より上位1つを回答）
- ・模擬保育を経験して学びになったことはどのようなことですか。（「グループで計画を立てたこと」「指導計画をもとに模擬保育をしたこと」「模擬保育に使う教材を準備したこと」「子ども役になったこと」「観察者になったこと」「模擬保育後に振り返りシートを書いたこと」「グループで保育を実践したこと」「グループで話し合いができたこと」の8項目より上位1つを回答）

〈保育所実習後〉

- ・今回の模擬保育の経験は保育実習に役に立ちましたか。（「非常に役に立つ」「かなり役に立つ」

「まあ役に立つ」「あまり役に立たない」「役に立たない」の5件法で回答)

- ・グループで保育をする意味はどのようなものがあると思いますか。(「保育内容について具体的なアドバイスがもらえること」「配慮点・工夫点を学べること」「自分では気づかない考えやアイデアがもらえること」「年齢に合った活動について学べること」「時間配分や活動の進め方について学べること」「指導計画など記録の書き方について学べること」の6項目より上位1つを回答)
- ・模擬保育を経験して学びになったことはどのようなことですか。(「グループで計画を立てたこと」「指導計画をもとに模擬保育をしたこと」「模擬保育に使う教材を準備したこと」「子ども役になったこと」「観察者になったこと」「模擬保育後に振り返りシートを書いたこと」「グループで保育を実践したこと」「グループで話し合いができたこと」の8項目より上位1つを回答)

3 結 果

(1) 保育者の役割分担に基づいた模擬保育を授業内で体験することの意義

保育所実習前の結果において、図1に示す通り、「個人ではなくグループで計画を立てた経験」は、「大変満足」は12%、「満足」は54%であり、履修した学生の6割以上が高い満足感を得ていた。

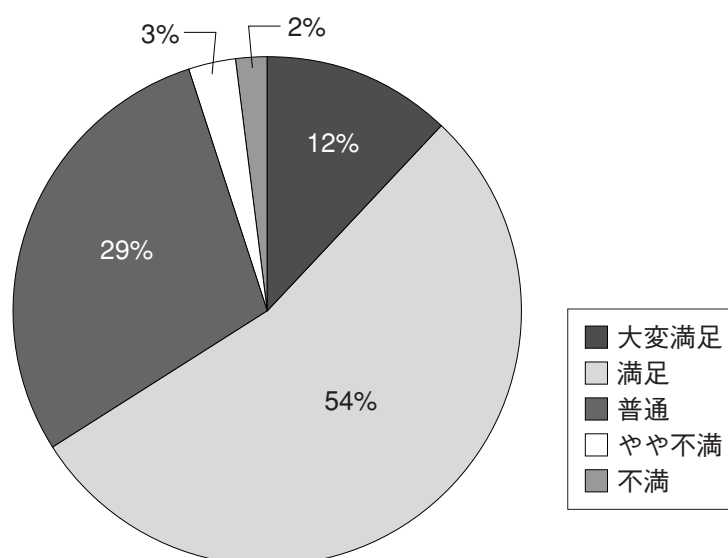


図1 グループで計画を立てた経験(実習前)

次に、グループでの話し合いで「うまくいったと感じたこと」と「難しいと感じたこと」について、実習前と実習後の比較結果を図2に示した。

うまくいったと感じたことでは「模擬保育の内容」と回答したものが57%と最も高く、次いで「意見を集約し調整すること」28%、「指導計画作成」6%、「時間配分」6%、その他3%となっていた。一方、グループでの話し合いで難しいと感じたことは、「指導計画作成」の作成が最も高く、35%であり、「時間配分」は21%「模擬保育の内容」は20%、「意見を集約し調整すること」17%であった。

更に、グループ内での学生自身の役割や貢献度についての満足度の回答を図3に示した。「大

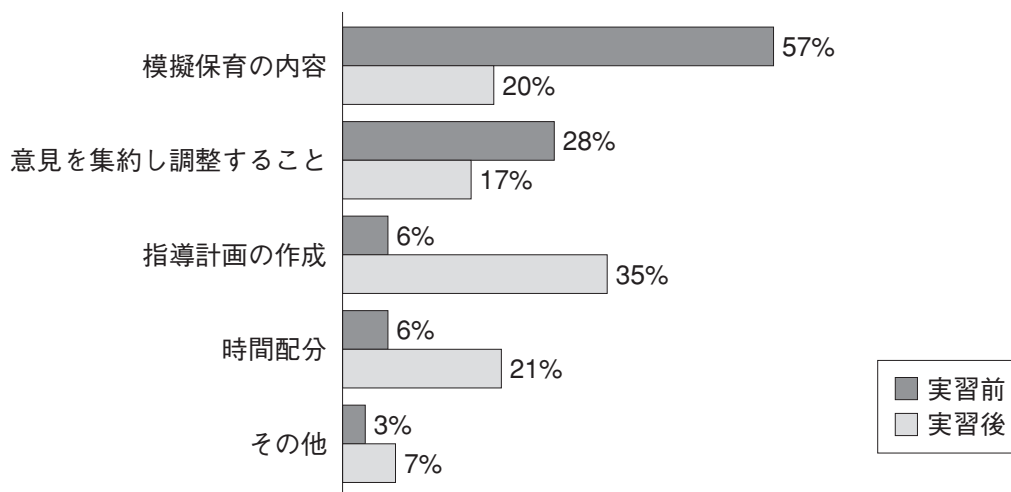


図2 話し合いでうまくいったと感じたこと・難しいと感じたこと(実習前後)

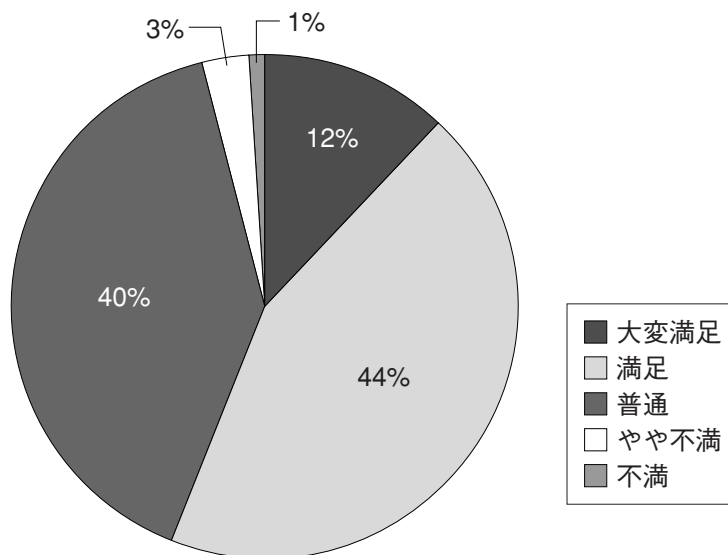


図3 グループでの貢献度(実習前)

「大変満足」12%、「満足」44%となっており、5割以上の学生がグループでの話し合いのときの発言やグループ内での自分の役割や貢献度について高い満足感を示していた。

(2) チームでの保育に対する気づきと学び

チームで保育をすることへの気づきについて「実習前」と「実習後」での回答結果の比較を図4に示す。

実習前では、「非常に役に立つ」22%、「かなり役に立つ」47%、「まあ役に立つ」28%であり、9割以上がチームとして模擬保育を行ったことに高い有効性を示す結果となっていた。実習後では、「非常に役立った」14%、「かなり役立った」37%、「まあ役に立った」41%であり、実習前と同様の結果であり、模擬保育での経験が実習における保育実践に深く結びついていたことが示される結果であった。

次に、グループで保育をする意味について、一番目に選択した項目の実習前と実習後の比較結

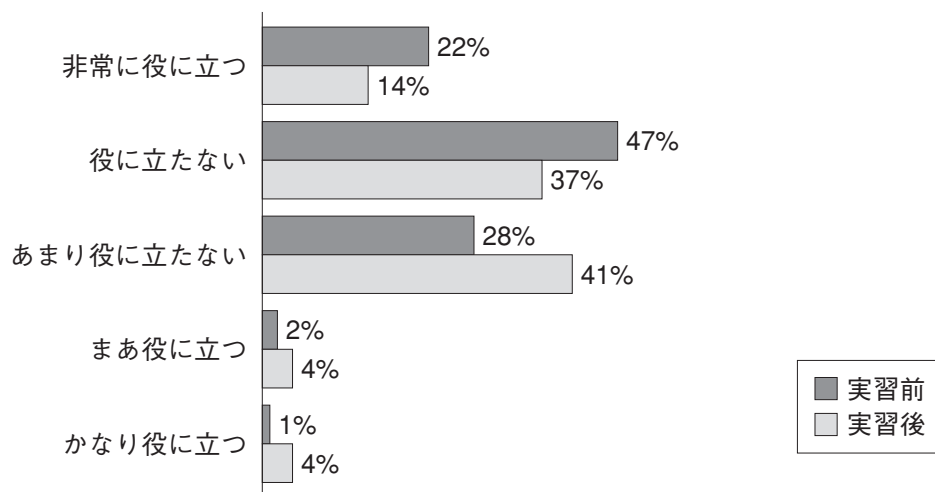


図4 模擬保育の有効性について(実習前後)

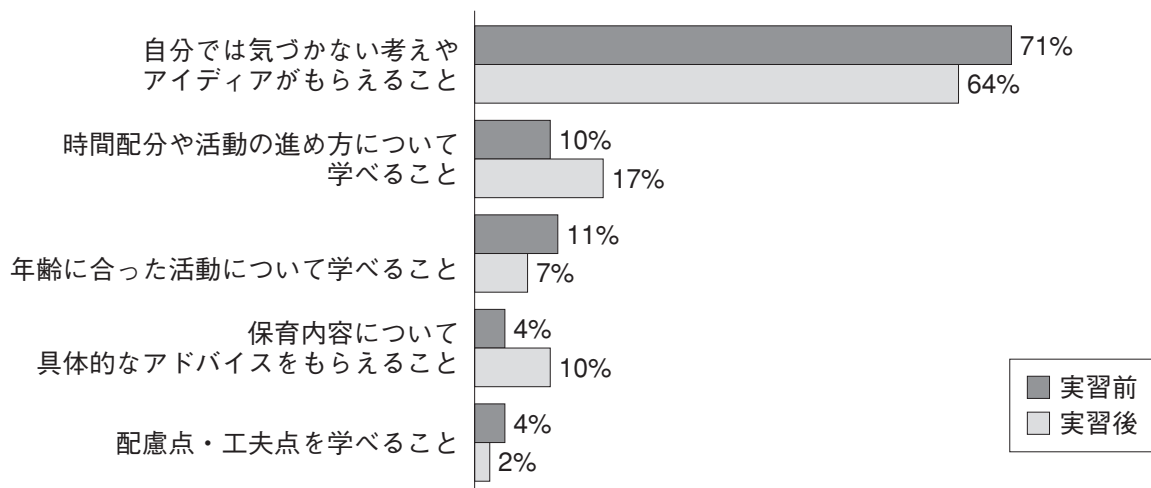


図5 グループで保育をする意味について(実習前後)

果を図5に示した。

実習前では「自分では気づかない考えやアイデアがもらえること」が71%と最も高い結果であった。実習後では64%と数値的には減少しているが、質問項目の中で最も高い数値となっていた。

最後に、模擬保育を経験して得た学びについて一番目に選択した項目の実習前と実習後の比較結果を図6に示した。

実習前では「グループで保育を実践したこと」が38%と最も高く、実習後の30%と比べると数値的には減少しているが、質問項目の中で最も高い数値となっている。また、実習後に学びになったと選択が増えた項目は「グループで計画を立てたこと」「教材を準備したこと」「振り返りシートを書いたこと」となっており、実習を経験することによって、グループで活動することへの気づきが高まったと推察される。

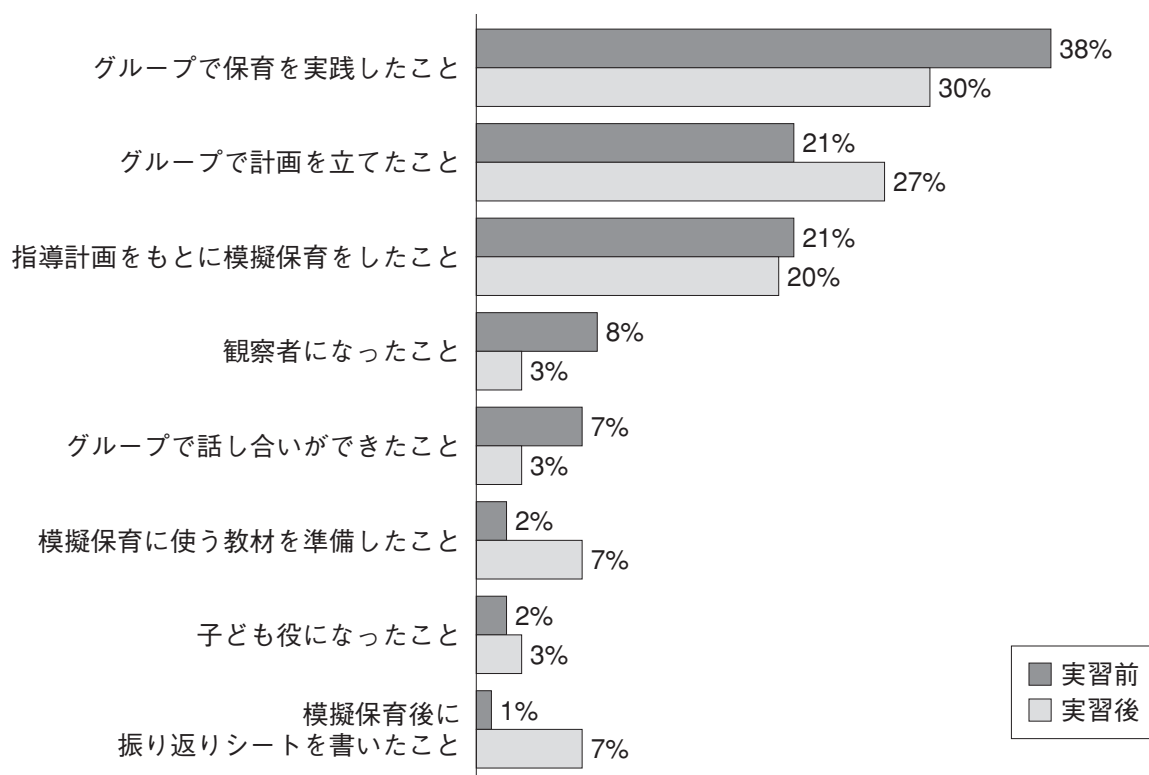


図6 模擬保育を経験して得た学びについて(実習前後)

4 考 察

本稿では、保育者養成校における保育所実習指導Ⅱの授業内容について、保育現場の実際に照らし合わせた学びとしていくために、役割分担に基づいた模擬保育を実施した。保育実践を経て得た学びの検証を目的に、授業終了後と実習終了後に質問紙調査を実施し、その結果を手掛かりに授業の在り方の検討を行った。

(1) 保育者の役割分担に基づいた模擬保育を授業内で体験することの意義

今回実施した模擬保育では、単に「模擬保育」を計画し実践するだけでなく、グループの成員を機械的に振り分けた偶発的な構成として、その中で自身の役割を意識して行動することを学生に伝え、立ち位置を含めた「チームで保育」する意味について意識するよう働きかけた。その結果、模擬保育終了後の質問紙調査結果【図1】では、66%の学生が「満足」したとの回答が得られていた。グループ成員の関係性は緊密であると言い難い中で、話し合いを重ね指導計画を作成し、教材を準備し実践する労力は想像に難くないと考える。しかしながら、6割強が「満足」という回答結果を導き出したことから、学生自身がコミュニケーションスキルを活用しながら、保育を作り上げていくことを学び得たことが推測される。更にグループで活動する中で、自分の役割を認識しながら一つの事を成し遂げる体験や自信がないこともお互いに意見を出し合う中で、自信につながり「うまくいった」と感じられたのではないだろうか。

保育における「同僚性」の重要性は様々な研究者が提唱しているが、中でも中坪(2014)が、同僚性は簡単に言えば、保育者同士が互いに支え合い、高め合っていく協働的な関係である⁹⁾と説明している内容は、まさに今回学生が同僚性に近しい経験を得たものと考えられる。中坪はま

た保育の特徴として、書物を読んだり、講演を聞いたりすることも大切ではあるが、保育者がチームになって、お互いの保育から学び合うことが何より重要⁷⁾と述べている。このことは、【図2】「話し合いでうまくいったと感じた」として、模擬保育の内容を57%の学生が選択しており、話し合いを重ねる中で学び合うことの体験となったことが推測される。この体験ⁱⁱⁱ⁾を経験^{iv)}として学生の学びにつなげていけるように、今後、振り返りの方法を検討していくことが望まれよう。また、「話し合いの中で難しいと感じた」として35%の学生が指導計画作成を選択していた。指導計画作成は保育内容とは異なり、意見を出し合うことでは解決しない問題も内在する可能性を含め、今後検討をしていきたいと考える。

更に、グループ内での自身の役割や貢献度については【図3】で示した通り、56%の学生が満足と回答していた。各クラスでの学生のグループ活動の様子では、話し合いを重ねるごとに対話場面が増え、役割を自ら申し出る姿が見られる等、チームワークを発揮し、お互いに認め合う姿が確認されていた。その認め合いが、各人の自信につながり更にチームに貢献しようという意欲につながったと考えられる。

学生の視点として保育を考えた時に、主となって保育を進める保育者の行動に注目しがちではあるが、今回の模擬保育ではサブやフリーの役割があることを学んだ上で指導計画を作成し、実際の模擬保育ではその役割を実践した。加えて、観察者としてそれぞれの役割を観察したことにより、現場の保育者も役割を分担しながら保育を進めていることに気づき、リーダーだけではなく、サブやフリー保育者の動きを意識することで「チーム保育」の意味がより深く理解できたと考えられる。そのことは質問紙調査結果からも明らかであった。

(2) チームでの保育に対する気づきと学び

模擬保育の有効性について【図4】に示した通りに実習前・実習後、共に9割以上がチームとして模擬保育を行ったことに高い有効性を示す結果となっていた。単に保育者役と子ども役に分かれた模擬保育ではなく、準備段階から保育者の役割分担を踏まえてチームで保育を進めることを意識したことにより、学生自身がより保育現場を意識する教授内容になったと推察される。更に、模擬保育に至るまでの話し合いや教材準備、材料借用のための教員への交渉も含め、すべてのプロセスが保育につながることをグループメンバーで共有し、役割分担をすることで成し得たと実感できたことも大きな学びとなったのではないだろうか。

具体的にグループで保育をする意味について、一番目に選択した結果は【図5】で示したように、実習前と実習後共に「自分では気づかない考えやアイデアがもらえること」が最も高く、「学び合い」を強く実感していることが明らかである。また、模擬保育を体験して得た学びについて一番目に選択した項目の実習前と実習後の比較結果は【図6】で示したように、実習前、実習後共に「グループで保育を実践したこと」が質問項目の中で最も高い数値となっていた。この結果からも「学び合い」の有効性を実感していると言えよう。その他、学生が実習後に増えた項目を総覧すると「グループで計画を立てたこと」「教材を準備したこと」「振り返りシートを書いたこと」となっており、現場での保育を想定した模擬保育は、経験の少ない学生にとっては、指導計画を作成し実践したという実績をもって実習に臨むことになり、机上の学びが実践として実感できた学びに転換できたのではないかと考えられる。

方法の「(2) 模擬保育の授業展開」で述べたように、模擬保育グループ成員の関係性は緊密であ

るとは言い難いメンバーで始まっている。このことを含め、全てを学びに変えて真摯に取り組み、実習に活かした中で得た成功体験が学生にとって大きな学びにつながったと考えられる。涌井(2011)⁸⁾は協同学習が単なるグループ作業で終わることなく、本当の協同学習の成立のための5つの基本要素が必要なことを図7に示したように理論付けている。

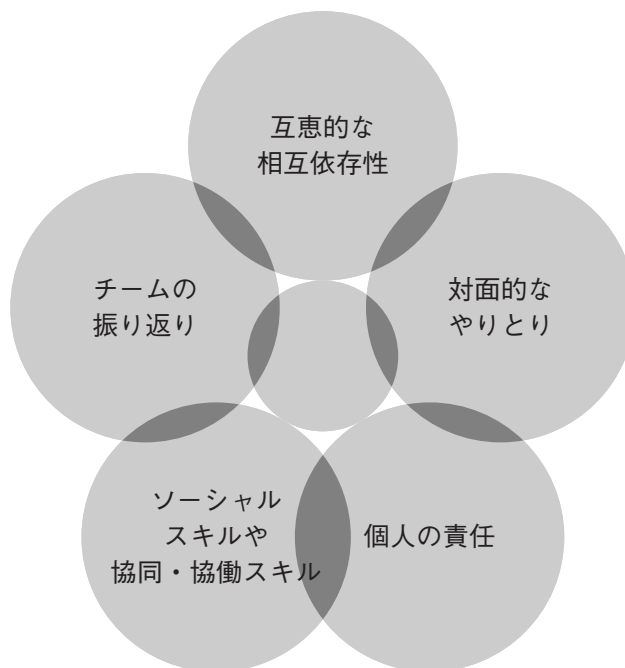


図7 協同学習の5つの基本要素 (Johnson, Johnson, & Holubec, 2002) の関係図 (涌井, 2011)

それによると、5つの基本要素とは、i 互恵的な相互依存関係がある、ii 対面的なやりとりの機会がある、iii 個人の責任があり明確である、iv ソーシャルスキルや協同・協働スキルがある、v チームの振り返りを行う、である。具体的に i 互恵的な相互依存関係があるとは、みんなで協力しないとできない活動場面の設定であり、ii 対面的なやりとりの機会とは、対面してある課題について、議論したり、教え合ったり、認め合ったり、ほめあったりできるような機会の設定をすること、iii 個人の責任があり明確であるとは、やるべき役割分担や責任をはっきり明示することであり、iv ソーシャルスキルや協同・協働スキルとは、相手の話を聞く、相手を非難したり攻撃せずに間違いを指摘する、意見が違ってても建設的に話す、応援する、勇気づけるなど、チームで協同・協働して課題解決するために必要なスキルを意識化すること、v チームの振り返りを行うとは、どんな風に援助し合ったら、また協力し合ったらチームがうまくいったのかについてチームで振り返る機会を設ける。と説明している。この理論に当てはめて今回の模擬保育の取り組みを振り返ると、5つの基本要素が満たされており、学生の「同僚性」につながる「学び合い」になっていったのだと考えられる。

保育を日々展開していく上では、チームで保育をすることは欠かせないことであり、冒頭でも、保育所保育指針では第5章職員の資質向上の章を挙げ、保育の課題等への共通理解・協働性を高めることや職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境について改めて確認をした。また、全国保育士会倫理綱領⁹⁾が掲げている8つの条文の条文5では、職場内のチームワークの重要性について

も明記されている。以上のように保育者として働く根幹をなす指針や綱領においても「チーム保育」「同僚性」は欠かせないものとなっている。養成校での学びの中で「チーム保育」「同僚性」については、理論上での展開は各科目担当の工夫によって、学生へ教授されていると思われるが、実践での学びの機会は難しいことが現状として考えられる。短期大学での2年間の学びの中で、チームで保育を展開するという意識を持つことが保育者と子どもの双方に有益であることを教授し、仲間の力を借りる、仲間に力を貸すといった適度な関係性を築き上げ、保育実践の現場に出て行ける一助となる授業内容を構築していきたいと考える。

5 今後の課題

今回、短期大学の最終学年での模擬保育の内容に、4月から保育者として働くことへのイメージ形成のため、グループで保育を考える機会や役割分担を意識した保育展開を意図的に設定した。その結果、チームでの保育を進めることや学び合いの視点での同僚性への気づきとつながる教育的効果があるという結果が得られた。一方で、異なるクラスの学生でグループを構成しているため、短期大学で学ぶ学生にとっては時間割に余裕がなく、授業外での打ち合わせや振り返りの時間を持つことが厳しい側面もあった。また、円滑に話し合いが進んだグループがある一方で、うまくいかなかったグループも見られた。社会生活において、うまくいくことばかりではないことは自明の理である。学生時代にうまくいかない体験を社会に出てから活用できるように、チームを円滑に機能させるためにはどのように行動すべきであるかなど、同僚性を意識したチーム保育の具体的な教授内容については、今後も担当教員として議論を重ねていきたいと考える。また、自由記述の分析、質問紙の効果的な回収法などの課題も残り、継続した検討が必要である。

■注

- i) 振り返りシートは巻末に添付資料1として掲載。
- ii) 振り返りシートは巻末に添付資料2として掲載。
- iii) 体験とは、(個別的・主観的) 実際に行動して体で感じることを意味する。
- iv) 経験とは、(一般的・客観的) 見聞きしたり行動したりして得られる知識やスキルを意味する。(正しい日本語.com (<https://tadasiikeigo.com>), 2023年1月14日閲覧)

■引用文献

- 1) 厚生労働省『指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について』、2013 (<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/sankou4.pdf>, 2023年1月5日閲覧)
- 2) 佐藤恵「保育実習指導(施設)シラバスにおける指導の現状と課題」『東京未来大学研究紀要11』、2017
- 3) 文部科学省『教職課程コアカリキュラム』、2017 (https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt_kyoiku_jinzai02-000016931_5.pdf, 2023年1月5日閲覧)
- 4) 坂口将太「アクティブラーニングを目的とした模擬保育の保育者養成への活用法に関する事例研究」『聖和短期大学紀要 (5)』、2019
- 5) 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018
- 6) 中坪史典「先生同士の「同僚性」を高める」『これからの幼児教育』ベネッセ教育総合研究所、2014
- 7) 中坪前掲書(2014)
- 8) 高野久美子・涌井恵監訳『子どものソーシャルスキルとピアサポート—教師のためのインクルージョン・ガイドブック』金剛出版、2011
- 9) 全国保育士会『改訂版全国保育士会倫理綱領ガイドブック』全国社会福祉協議会、2004

添付資料１ 保育者役・子ども役振り返りシート

模擬保育振り返りシート		
月 日	学籍番号:	クラス:
発表グループ	氏名:	役割:リーダー・サブ・フリー・子ども ←○を付けてください
ねらい: 活動内容:		
*5.活動内容については全員が、その後は自分の役割のところに書いてください。		
1. 保育者(リーダー)		
	1～6の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください。
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けた	
3	声の大きさ・発音・速さが適切で聞きやすいように気を付けた	
4	子どもに視線をあわせ、やりとりを楽しんだ	【工夫したほうが良かった点】
5	子どもにわかりやすい言葉を使用した	
6	子ども全体に目を配って保育を進められた	
2. 保育者(サブ)		
	1～6の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けた	
3	子どもに視線をあわせ、やりとりを楽しんだ	
4	子どもにわかりやすい言葉を使用した	【工夫したほうが良かった点】
5	援助が必要な子どもに対応できた	
6	リーダーの動きに合わせて適切なサポートができた	

3. 保育者(フリー)		
	1～7の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けた	
3	子どもに視線をあわせやりとりを楽しんだ	
4	子どもにわかりやすい言葉を使用した	【工夫したほうが良かった点】
5	援助が必要な子どもに対応できた	
6	次の活動を予測し行動できた	
7	保育に必要な教材や道具の準備や片付けができた	
4. 子ども役		
	1～3の番号で良かった番号 1つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	年齢相応の言葉のやりとりが再現できた	【良かった点】
2	年齢相応の行動やスピードが再現できた	【工夫したほうが良かった点】
3	年齢相応の仲間関係が再現できた	
5. 活動内容		
	1～3の番号で良かった番号 1つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	年齢相応の活動内容であった	【良かった点】
2	活動の時間配分は適切であった	
3	ねらいが達成できるように協力できた	【工夫したほうが良かった点】

添付資料２ 観察者役振り返りシート

模擬保育振り返りシート(観察者用)		
月 日	学籍番号:	クラス:
発表グループ	氏名:	
ねらい: 活動内容:		
1. 保育者(リーダー)		
	1～6の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けていた	
3	声の大きさ・発音・速さが適切で聞きやすいように気をつけていた	
4	子どもに視線をあわせ、やりとりを楽しんでいた	【工夫したほうが良かった点】
5	子どもにわかりやすい言葉を使用していた	
6	子ども全体に目を配って保育を進めていた	
2. 保育者(サブ)		
	1～6の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けていた	
3	子どもに視線をあわせ、やりとりを楽しんでいた	
4	子どもにわかりやすい言葉を使用していた	【工夫したほうが良かった点】
5	援助が必要な子どもに対応していた	
6	リーダーの動きに合わせて適切なサポートをしていた	

3. 保育者(フリー)		
	1～7の番号で良かった番号 2つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	保育者として身だしなみが適切であった	【良かった点】
2	笑顔で語りかけており、親しみやすいよう心掛けていた	
3	子どもに視線をあわせやりとりを楽しんでいた	
4	子どもにわかりやすい言葉を使用していた	【工夫したほうが良かった点】
5	援助が必要な子どもに対応できていた	
6	次の活動を予測し行動していた	
7	保育に必要な教材や道具の準備や片付けをしていた	
4. 子ども役		
	1～3の番号で良かった番号 1つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	年齢相応の言葉のやりとりが再現できていた	【良かった点】
2	年齢相応の行動やスピードが再現できていた	【工夫したほうが良かった点】
3	年齢相応の仲間関係が再現できていた	
5. 活動内容		
	1～3の番号で良かった番号 1つに○を付けてください	具体的に書いてください
1	年齢相応の活動内容であった	【良かった点】
2	活動の時間配分は適切であった	
3	ねらいが達成できるように協力できていた	【工夫したほうが良かった点】